

神奈川県立

# 公文書館 被災公文書レスキュー

## 陸前高田のあゆみが詰まった公文書を、もう一度「使える」ように

県立公文書館が、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市の公文書を修復する支援事業「被災公文書レスキュー」を行っています。津波による濡れやカビ、土砂などの汚れがあり、通常使用ができなくなった文書をもう一度「使える」ようにするこの取り組み。その現場で作業するレスキュー隊員の活動をご紹介します。

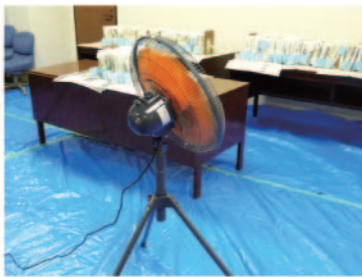
### 作業工程

修復作業を行う上での目標（仕上がり規準）は、“行政実務の現場で「使える」文書としての機能回復”をすることです。そのために行う処置内容は、①内容情報の保全 [ドライクリーニング・ページ固着の解消]、②長期保存を阻害する要因の除去・抑制 [乾燥・金属除去・殺菌]、③利便性（利用・保管）の確保 [表紙交換] という流れで作業を行っています。

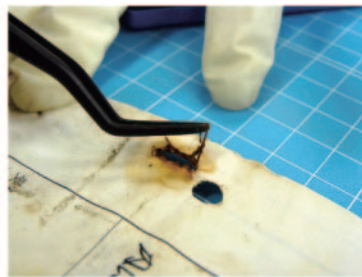
① ドライクリーニング、  
ページ固着の解消



② 乾燥



金属除去



殺菌



※70%消毒エタノールを噴霧しています

③ 表紙交換



### 服装・道具について

土砂やホコリが付着した文書も多くあるため、隊員の健康・安全を考慮してゴーグル、防塵マスクを装着し、各自エプロンや白衣、アームカバーなども身に付けて作業に当たっています。また、集塵機を導入することで、一層の粉塵対策に努めています。



## 陸前高田市役所の被害

(撮影日 2011年10月19日)

↓市庁舎には4階付近まで津波が押し寄せたため、事務所で使用していたほとんどの文書が流されてしまいました。庁舎裏手の保管庫で流出を免れた「永年保存文書」が今回の私たちのレスキュー対象です。



↑市庁舎周辺には、がれきの山や潰れた車が多く積まれていました。撤去作業が進められている一方で、主を失ったさまざまなものが散乱したままの場所も見受けられました。

## リーダーからの言葉



### リーダー 木本 洋祐

「記録を守り記憶を伝える」使命を担うアーカイブズ機関が、ダメージを受けた公文書を長期保存できる状態に復旧するレスキュー事業に

関与することは、正しく本来的なミッションと言えます。今回のレスキューは、陸前高田市職員、職員OB、緊急雇用された地元市民の方々、全史料協(全国歴史資料保存利用機関連絡協議会)のメンバーなどが地道に続けた乾燥作業を受けて行うものに他ならず、相互連携の一つの環を成す活動と言えます。我々はその環の一つを担っている責任を感じながら日々の作業に当たっています。壊滅的な被害を受けた陸前高田市が、以前のような街並みを取り戻し、復興を遂げるプロセスに微力ながらも寄与することができれば幸いです。さらに、今後も繰り返されるであろう自然災害で蒙る被害の最小化や、迅速な復旧へ向けた危機管理のノウハウを蓄積することも今回の事業の成果にしたいと考えています。



### 技術リーダー 八巻 恵美

「これは大変だ」。それが最初の印象でした。ボロボロの表紙、泥とカビで固着しブロックの塊ようになった資料を前に、被害の大き

きさを感じ、しばらく言葉が出ませんでした。呆然としながらも、陸前高田市から当公文書館への運び出し作業のリミットは一日半。被災公文書の詳しい状況を把握出来ないままにレスキュー隊全員で練りに練った工程は、大きなトラブルもなく進めることが出来ました。びっしりとこびり付いた泥には刷毛やクロス、スポンジ等で力を加減しながら使い分け、カビの痕跡があるページ同士の固着には薄いヘラを使って慎重に剥離、また破れや欠損には安全で元の状態に戻せるしょうふ糊と和紙で補修していますが、処置方法は思案の連続です。全員でひとつひとつ最善の解決策を導き出し、2012年3月末にはまた実務の現場に「復帰」させられるような仕上がりを目指したいと思います。